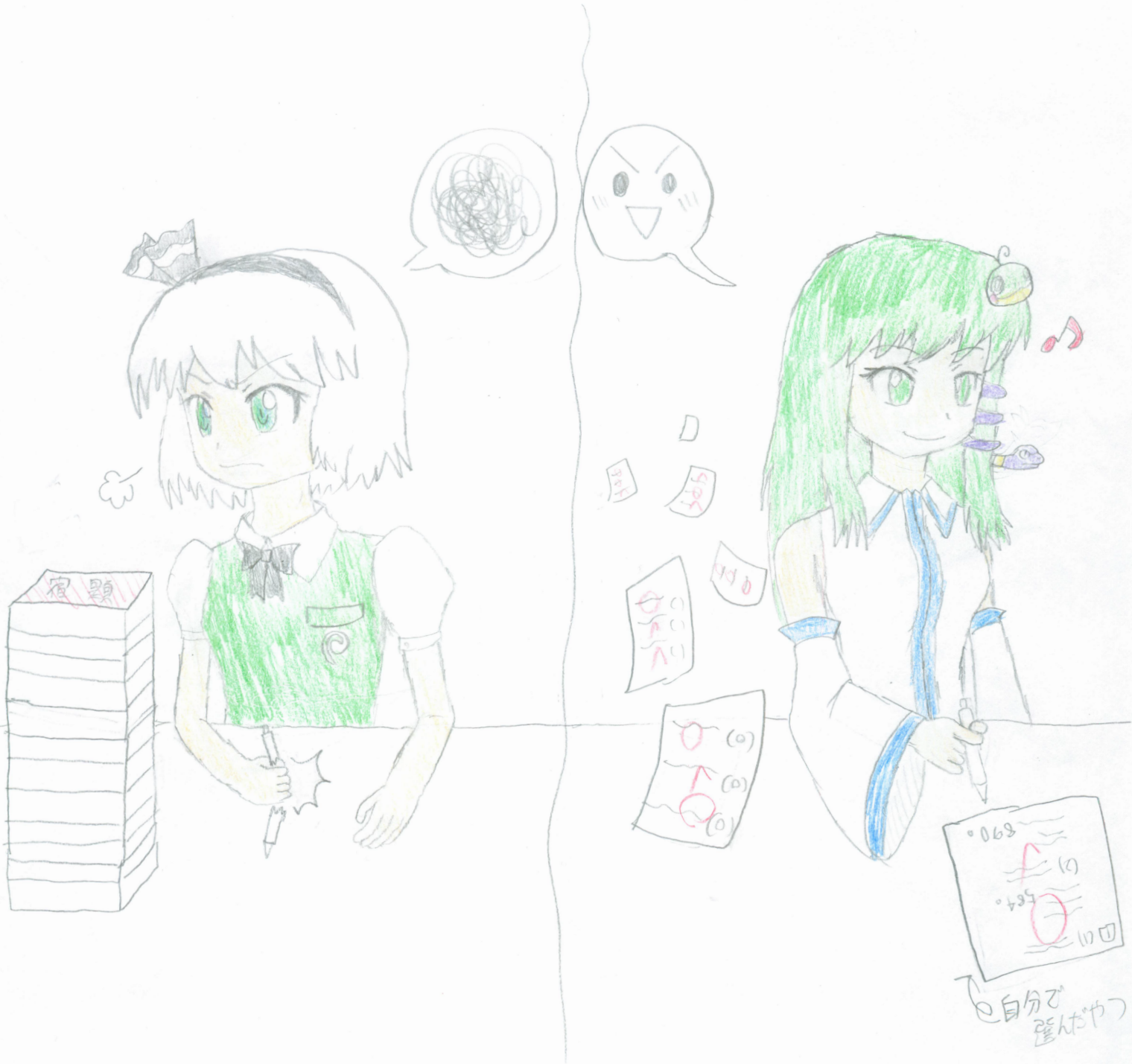


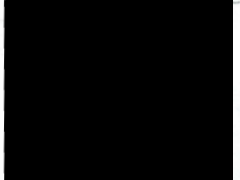
日本の学校の宿題の現状

～問題点と改善案について考える～



School Garden アスラ所属
『J.H.2.S. フジツボ戦線』

本執筆、イラスト
調査、副執筆



前書き

宿題とは、学校から出される家庭学習のノルマのことを指す。

多くの方は「たゞしい」「めんどうくさい」「やりたくない」等と「思った」であろう。

そんな「めんどうくさい」宿題に、果たしてどのくらいの意味があるの

だろう。嫌な思いをして時間を割いてやるのなら、意味あるものにした

い。宿題がどの程度役に立つのかそれを考えていく。

諸外国における宿題と学力の関係

統計によると、宿題を多く出せばそれだけで学力向上するわけではないらしい。

米国、ペンシルバニア州立大学の研究グループによる、宿題の量と子どもたちの学力向上との関連性などを分析調査した最新レポートが発表された。(2015年)

同レポートによると、過去に実施された、国際数学理科教育動向調査の結果データなどの詳細を分析を基にしてまとめられた、世界各国の中高生の学力と学校が出せる平均的な宿題の量との関係に着目した分析が進められたようだ。

興味深いことに、TIMSSの成績がハイレベルの日本、左リ共和国、

デンマークなどでは、一般的に教師はあまり多くの宿題を出さない

傾向があり、⁽⁴⁾ TIMSSの成績がローレベルのタイ、ギリシャ、インドでは

教師は非常に多くの宿題を出し傾向が強かったとされている。⁽⁵⁾

学力ランキングを見てみると先進国の平均は30位前後である。

宿題の量とはいうと、夏休みなどの長期休みは宿題が出ないが、学習塾等

はあまりなく、普通の学校では宿題が出ないように出さうた。次に日本以外の

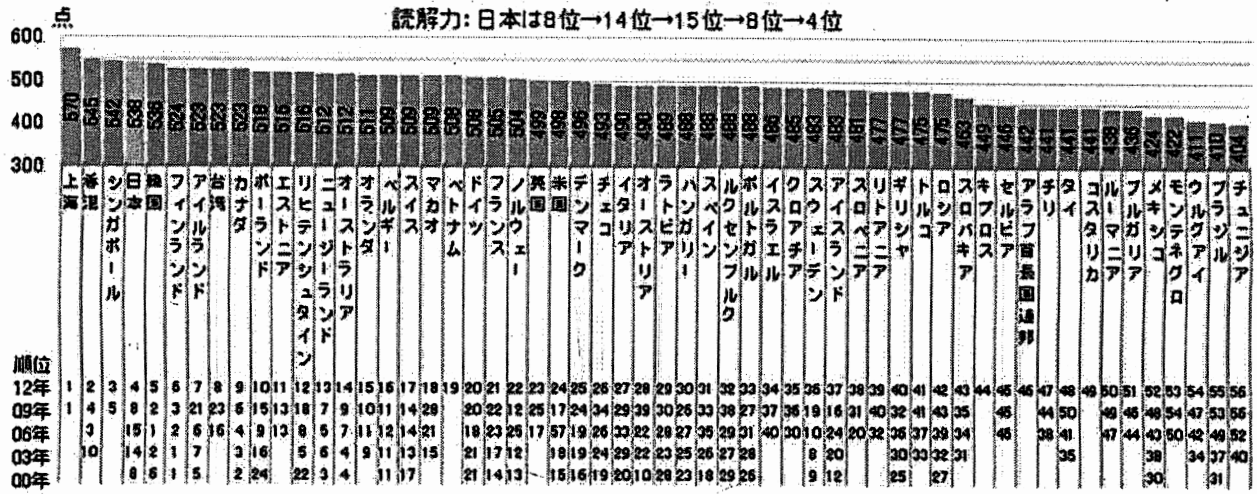
のランキング上位にいる先進国にはオランダがいるので「週1で20分

宿題は基本的にないようだ。しかも入学試験なし、給食なし、時間割

自由とかかなり自由である。ほかにも上位にいるフィンランドも宿題はか

ないらしい。これを見ると、宿題を出すことが必ずしも成績向上には結びつかない分かる。

学力の国際比較(2012年)



前項で利用したグラフ。

日本における現状の宿題システム。

前項までの結論として、海外において宿題が必ずしも成績向上の一助となっているわけでは無いということが分かった。さて、日本ではどうだろう。

中学校であれば、普段は自分の能力に合わせて自由に勉強ができる。

しかし、高校になると、毎週大量の宿題が提示され、日々の家庭学

習の自由を奪っている印象は否めない。ただし、これはあくまで執筆者らが

在学、あるいは卒業した学校の印象であることは明記しておく。

また、宿題の内容についても問題点が見られる。宿題は普通、全員に

一律で出題される。これは原則として集団平均レベルを見て出されるため、

平均より特段にレベルの高い者にはあまり意味が無く、また特段にレベルの

低い者には内容の理解も出来ない。

例えば、すでに理解できている範囲を出題されたところで、ただの

練習に過ぎない。完全に無意味ではないのだが、まずは理解でき

ない範囲をどうにかすることが先だ。見えないうつまずきの洗い出しが出来るメリット

はあるが、とりあえず目に見える苦手の克服を先にした方が勉強のモチベーションも上

がる。

逆に、出題範囲より前のところでつまづいていれば、もはや宿題内容の

理解は不可能だ。つまづきポイントの洗い出しの意味では極めて有効であ

るが、矢継ぎ早に大量の宿題が出される現状において、洗い出しができたところでその克服にとれる時間が無いのは揺るぎなき事実だ。

システム そのものにも問題はあつた。期日までに提出が出来れば「観点」として評価され、出来なければ重いペナルティが課せられる。前者にはゆゑはあるが伸びない生徒への救済の意味もあるたつたが、後者は完全に生徒を束縛するためのシステムだ。このために宿題を深く理解しようとして、やるだけやめて...例えば答えをそれっぽく写して...提出してしまう風潮があるのは否定できない。勿論、これでは宿題に勉強としての価値など塵ほどもない。生産性が無いのであれば、好き勝手に遊び呆けてしまう方が精神的苦痛を伴わないたけましである。

また、ある程度以上のグレードの中高生の間では「宿題代行サービス」が流行している。曰く、「必要を勉強をしていると学校の宿題をやるヒヤなどない」のだそうだ。現行の宿題システムの意味の無さを如実に物語っている。このことから、宿題が生徒にとってプラスに働いているとは思えない。

ころでその克服にとれる時間がないのは揺るぎなき事実だ。

システムそのものにも問題はあつた。期日までに提出が出来れば「観点」として評価され、出来なければ重いペナルティが課される。前者にはやる気はあるが成績が伸びない生徒への救済の意味もあるだろうが、後者は完全に生徒を束縛するためのシステムだ。このために宿題を深く理解しようとして、やるだけやめて…例えば答えをそれほく写して…提出してしまう風潮があるのは否定できない。勿論、これでは宿題に勉強としての価値など産ほどもない。生産性が無いのであれば、好き勝手に遊び呆けてしまう方が精神的苦痛を伴わない分だけましである。

また、ある程度以上のグレードの中高生の間では「宿題代行サービス」が流行している。曰く、「必要な勉強をしていると学校の宿題をやるヒヤなとあんなのたぞうだ。」現行の宿題システムの勉強としての意味のなさを如実に物語っている。このことから、宿題が生徒にとってプラスに働いているとは思えない。

改善案とまとめ

ここまで、宿題の有用性がシステムに関しての問題点がお分かりいただけたかと思う。では、意味のある宿題とは何かについて考えてみたい。

宿題の大きな問題点として、「一律で出さねるためレベルが平均とかけはなれている者の効果が薄い、あるいは皆無」「やりたい範囲と出題範囲が合わっていない」というものがあった。そこで、次の案を提案したい。

・広い範囲を宿題として設定し、レベルを数段に分割して範囲とレベルを自由に選択させる。

・わざと低いレベルを選んで楽をする横着者が現れるのを阻止するため、過去のテストの成績等を鑑みてレベルの上下限を設定する。また、低いレベルのものは少し量が多くなるようにする。「やるだけや、て出すのを防ぐため、其期限にある程度余裕をもたせる。

現状の宿題の問題点及び改善案をここまで挙げてきた。もちろんまだ見落している問題点や現行システムが改善案に勝る点等はあると思う。だがこれまでに見てきた宿題の現状を解決するために、私たち、チームS.H.2.S.7がツボ戦線は上記の案を推したい。もし、私たちがとある学校の校長であるならば現行の宿題を廃止し、上記の案へ移行させるべく動くだろう。何故なら本校の生徒を伸ばすことが校長の役目であり、そのためには現行の宿題システムよりも改善版のシ

テムの方が適していると確信するためである。

参考 70-31

<http://10000km.com/wp-content/uploads/2013/12/pisa2012-s1.jpg>

<http://news.mynavi.jp/news/2005/06/03/007.html>